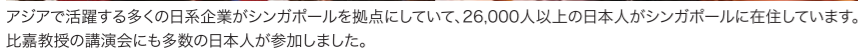
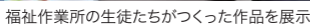
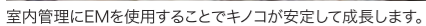


福祉作業所での
積極的なEM活用



シンガポールにも波及するEMの環

シンガポールとマレーシアは華僑ネットワークの関係もあり、経済的に非常に強いつながりを持っています。国土が狭いシンガポールでは農業はほとんどなく、家庭内でEMが使用されたり、EM飲料などの2次製品が主に活用されています。

2013年4月には比嘉教授による講演がシンガポール日本人会館で

行われ、多くのEMユーザーがEM技術の最新情報に耳を傾けました。また最近では技術専門学校でも臨時にEM講習会が開催されており、学生の環境衛生教育などにも活用されています。今後、専門教育の先進地であるシンガポールにおいて、研究機関との共同研究も進められる予定です。

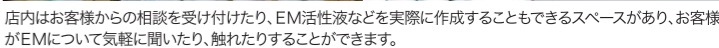
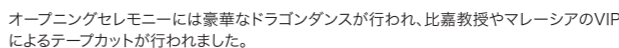


(株)EM研究機構

政府主導のもと農業分野でのE M普及が進むなか、2003年頃より民間レベルでもE Mの普及が始まり、環境や健康など幅広い分野での活用が広がるマレーシア。本誌16号でも広くお伝えしましたが、EMROの直営店がオープンするなど、EMのニーズが高まっています。マレーシアが東南アジアのEM拠点へと成長しつつあります。

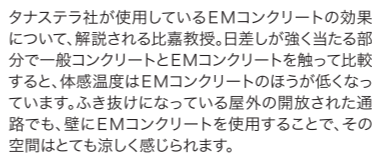
海外直営店第一号がオープン

2013年4月に(株)EM研究機構の海外直営店第一号となるEMグリーン・ライフがジョホール・バル州にオープンしました。お店では、EMを活用したマレーシアの商品や、日本、タイ、インドネシアなど近隣諸国の商品も多数販売しています。オープンングセレモニーには比嘉教授を始め、多くの関係者が駆けつけ、盛大にセレモニーが行われました。将来はマレーシアを含む近隣地域にもチェーン展開することにより、より多くの人々に日常生活の中でもっとEMを活用してもらうことが期待されています。



開発会社が中心となって、
まちづくりへEM活用

※ ジョホール・バル州では開発会社タナステラ社と(株)EM研究機構との合意のもと、2011年7月から建築分野へのEMの活用が大規模に進められています。タナステラ社では、建築の現場のみならず、職員の教育と健康管理にもEMを活用しています。「EM生活を職員に促すことで病休が減るとともに、集中力が上がり、業務効率の改善に大いに貢献している」とゼネラルマネージャーのステイブンは言います。また、同社は人と環境にやさしい街づくりを進めるため、地域の住民や学校を対象にEMに関するセミナーを開催。2013年11月には図書館と劇場ホールが併設された、地域最大のショッピングモールが完成し、その施設内でEMの定期的なセミナーの開催が予定されています。



※詳しくは、本誌 16 号海外特集 P13~P14 参照